

《担当者名》向谷地生良 [ikuyoshi@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

世界の精神医療とそれに関連したケアや福祉サービスは、1990年代にアメリカにおける「リカバリー」の概念の登場とその広がりに象徴されるように「脳」が「心」か、といった理念対立を越えて、あらたなステージに移行しつつある。これをもっとも端的に表しているのがイギリスの精神医療改革であり、そのはじまりと現在の取り組み、到達点を軸にそれに影響を与え、関連しているアメリカやEU（特にフィンランド・イタリア）における動向を含めて、その改革のベースとなっている理論とそれに基づいたイギリスの具体的な精神保健福祉サービスの現状についての文献と論文の講読をする。

【学修目標】

- 1) イギリスにおける精神保健福祉改革の社会的な背景とそれに基づいた精神保健福祉サービスの現状と課題を説明できる
- 2) イギリスの精神保健福祉改革の背景にあるリカバリー概念をフィンランド、イタリア、アメリカの動向と関連付けて理解し、説明できる。
- 3) それらを踏まえて、我が国における精神保健福祉の現状とあり方について構想する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	イギリスとアメリカにおけるリカバリー概念の成立と広がり	イギリスのベネット(Bennett, D.H.)やウィング(Wing, J, K.) とモリス(Morris, B.)、シェパード、アメリカのアンソニー(Anthony, W. A.)らのリカバリー概念を中心に、その成立の背景と広がりについて論文の講読を行う	向谷地
6) 12	イギリスの精神医療改革とリカバリーカレッジ、オープンダイアログ（フィンランド）、イタリアの精神医療改革の背景と現状	1) 戦後のイギリスにおける精神保健福祉施策の変遷に関する論文を講読する 2) イギリスにおけるリカバリーカレッジの取り組みについて関連する論文、資料を講読する 3) イギリスにおける統合失調症治療における認知行動療法の導入に関する論文、資料を講読する 4) ヤーコ・セイックラのオープンダイアログに関する論文を講読する 5) イタリアの精神医療改革をバザーリアの思想を中心に論文を講読する	向谷地
13) 15	本論の総括を図る	我が国の精神保健福祉の現場から生まれた当事者研究の視点から、共通性と独自性を中心にディスカッションを行う	向谷地

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講読のプレゼンテーション（50%）および討議への参加（50%）などを総合評価する。

【教科書】

なし

【参考書】

随時、提示する

【学修の準備】

事前に文献と関連資料を読み、プレゼンテーションできるような準備が望まれる。